

令和7年度 教育研究所 班別研究 「里沼 CivicPride プロジェクトチーム」

I 研究テーマ

主体的に学び、系統性を生かした「探究的な学び」の実現
～地域人材や地域資源の活用を通して～

II 研究の目的

総合的な学習の時間において、地域人材および地域資源の活用を図った実践や、学校間でオンラインによる成果発表会を行うことで、児童生徒が主体的に学ぼうとする学習意欲が高まり、児童生徒の郷土愛が醸成されることを明らかにする。



Ⅲ 研究内容

1 「A教諭の実践」

(1) 実践内容

A小学校では、第4学年の総合的な学習の時間において、多々良沼をはじめとする里沼の歴史や文化について調べたことに伝える実践を行った。

「課題の設定」の場面では、多々良沼に関する動画や資料に触れること通して、「多々良沼にはどんな歴史や文化があるのか」について考える活動を設定した。児童からは、「身近にあるけれど、知らないことがたくさんある」「もっと調べて、みんなに知らせたい」「たたら製鉄が、多々良の名前の由来になっていることを知った」といった意見が出るなど、一人一人が個の課題を設定することができた。

「情報の収集」および「整理・分析」の場面では、市文化振興課の職員からの多々良沼の歴史や文化について講話していただいた。その中で事前の調べ学習の中で疑問に思ったことを質問する姿が見られた。また、カナクソの実物に触れる体験を通して、多くの気づきを得ていた。

「まとめ・表現」の場面では、学習したことを整理しスライド等にまとめる活動を行った。「百年小麦」や「川魚が食べられるお店」など、伝えたい情報を選び、紹介文を考えたり、多々良製鉄の仕組みを図やイラストを使って分かりやすく表現したりしようと工夫することができた。その後まとめたことを「オンライン里沼サミット」で市内の小中学校の児童生徒に紹介したり、授業参観で保護者や地域の方々に伝えたりする活動を行った。児童からは「茂林寺沼の花やヨシのことが知れてうれしかった」「茂林寺沼のヨシについて自分で調べてみたい」「どの学校も発表がとても分かりやすくこれからの参考にしたい」など振り返ることができていた。



出前授業の様子



成果物 (スライド)

さんが話していた茂林寺沼に生えているヨシについてとても興味が湧きました。なぜ、そういう名前なのか、なぜ茂林寺沼に生えているのか。質問では聞けなかったけれど、自分で自主学习として調べてみます。どの学校もとても良い発表でした。こういう機会はなかなかないのでいろんな発表を聞けてとても楽しかったです。

あんまり茂林寺沼のことは知らなかったけど、の4年生や1年生のみなさんのおかげで、茂林寺沼の花やヨシなどの植物のことが知れてとてもうれしく思った。

オンライン里沼サミットのふり返り

(2) 成果と課題

成果

○ただの調べ学習でなく、地域の人話を聞いたり実際に体験したりすることを通じて、より自分事の学びへとつながった。そのため、子供の「なぜ」「どうして」などの問いが自然と生まれた。

○地域の方話を聞くことで、地域の人々の思いに触れることができ、地元への愛着や誇りをもつことができた。また、専門家の話を聞くことで、インターネットだけでは知ることができない情報をたくさん得ることができた。

課題

●子どもたちの学習課題に合った地域人材を探すことが難しい。そのため、学習課題に応じたゲストティーチャーとしてどんな方がいるのかがすぐに分かるようなものが必要である。

2 「B教諭の実践」

(1) 実践内容

B小学校では、第4学年の総合的な学習の時間において、児童の興味や関心に応じた地域人材の積極的な活用をテーマに、里沼を題材とした探究課題「広がれ！私たちの茂林寺沼」を設定して実践を行った。

小单元1「調べ学習やフィールドワークを通して、茂林寺沼の魅力を発見しよう」では、まずB小学校と市内小学校の第4学年児童に茂林寺沼についてのアンケートを実施し、市内の小学生に茂林寺沼についてあまり知られていない実態を把握させたうえで、単元の課題設定を行った。そして、フィールドワーク等で学んだ茂林寺沼の魅力を発信するため、新聞「茂林寺沼タイムス」を作成し、紹介する活動を行った。紹介後、児童からは「見たかった生き物がフィールドワークで見られなかった」「フィールドワークではイベントについては調べられなかった」等の意見が挙がった。

そこで、小单元2「地域や専門家の方々に話を聞いて、茂林寺沼の魅力をよりくわしく知ろう」において、児童に「茂林寺沼のどのようなことについて話を聞きたいか」を考えさせ、大きく4つの内容にグループ分けをした。そして、それぞれの内容に詳しい地域の方々と連携を図り、出前授業を行った。児童は、自分の興味のある内容の話の聞いたり質問をしたりして情報収集を行った。

小单元3「茂林寺沼の魅力を周りの人たちに発信しよう」では、茂林寺沼の魅力をどのように周りの人々に発信していくかを考え、実際に発信する活動を行った。調べたことをスライドにまとめ、授業参観で保護者や地域の方々に発信したり、「オンライン里沼サミット」で市内の小中学校の児童生徒に紹介したりする活動を行った。



フィールドワークの様子



作成した「茂林寺沼タイムス」



出前授業の様子

(2) 成果と課題

成果

○児童一人ひとりの興味や関心に沿ってフィールドワークや出前授業を行うことで、里沼の自然やその特色、良さについて自分事として捉え、児童が意欲的に取り組むことができた。

○多様な地域人材の活用により、児童がこれまで知らなかった茂林寺沼の魅力について知ったり里沼の存続を願う人々の思いに触れたりしたことで、郷土愛の醸成を図ることができた。

課題

●児童一人一人の興味や関心に応じ多様な地域人材の活用を行ったが、その確保や日程の調整に時間を要してしまった。活用できる地域人材のさらなる整理が必要である。

3 「C教諭の実践」

(1) 実践内容

C中学校では、第1学年の総合的な学習の時間において、生徒の興味や関心に応じた地域人材の積極的な活用をテーマに、里沼を題材とした探究課題「身近な環境『水・ゴミ』問題を解決しよう」を設定して実践を行った。

まず、学校の近くの近藤沼でゴミ拾いを行った。たくさんゴミを拾うつもりであった生徒はあまりのゴミのなさや整備された様子に驚き、近藤沼が多くの人の手で守られているということを体験的に理解した。次に、「茂林寺沼の見学」でガイドさんの話を聞くとともに現地の様子を見学した。そこで茂林寺沼、近藤沼だけでなく『里沼』が地域の様々な団体によって守られているということに気づき、「里沼のきれいさの秘訣を知り、発信しよう」という単元の課題を設定した。

個別課題設定の前の「情報の収集」の場面では、生物をテーマにD高校のグリーンサイエンス科の生徒から出前授業を受けた。里沼に関わる講話を聞いたり培地を用いて植物片を育成する体験をしたりした。あまり変わらない年齢の先輩たちの姿を見て、自分たちにもできることがあるのではないかと考える姿が見られた。また、「ヨシ細工」の体験では、関係団体から職員が研修と材料の提供を受け、ヨシを用いたライトの制作を行った。伝統的な材料を用いたという側面だけでなく、使用したヨシが里沼の整備をしていく中の副産品であったことに着目し、里沼を大切にしようとする思いが様々な文化として残されているということに気づくことができた。これらを受けて生徒は自分の課題を設定し、ポスターにまとめ発表した。

今後は、京都など他の地域の文化に触れるときにも今回の学習を生かし、文化財を取り巻く多くの人々の思いに気づくことができると考えられる。



ゴミ拾い



出前授業



ヨシ細工



ポスター

(2) 成果と課題

成果

- 小学校ごとに体験の差があることを活かして、情報交換を行うと生徒が意欲的に情報交換を行い、興味・関心を高めることができた。
- 多様な地域人材の活用により、里沼そのものの良さだけでなく、里沼を取り巻く様々な文化や人々の思いに気づき、郷土愛の醸成を図ることができた。

課題

- 小学校ごとの既習内容の違いについてより整理されていれば、小学校での経験をより一層活用していくことができたと思われる。里沼学習のデータベース化の重要性は高いと考えられる。

IV 里沼 CivicPride プロジェクトチームの研究の成果と課題

1 研究の成果

○地域資源や外部人材の活用によって、児童生徒が地域のよさや地域の人々の思いに触れることができ、郷土愛の醸成につながるとともに、既存の学習単元より意欲的に取り組めるものになった。

○中学校においては、小学校での体験の差を生かして交流を行うことで、地域ごとの違いに触れたり、その違いを比較する活動から新たな学習課題が生まれたりするなど、子どもの主体的な学びにつながることがわかった。

2 研究の課題

●地域人材の活用のためには、授業の目的やねらいなどを共有するなど十分な事前打合せが必要となる分、調整に時間がかかることが多い。余裕を持った計画や、ポイントを絞ったできるだけ短時間での打合せとなるような工夫が必要である。

●中学校では、小学校ごとの違いをうまく生かした単元計画を作成するために、校区内小学校の既習事項をあらかじめ把握しておく必要がある。